



■地域が育む『かごしまの教育』県民週間

11月1日～7日に「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」が実施されました。今年度は、新型コロナウイルス感染防止により、出来る限りの対策を講じながらの県民週間にもかかわらず、たくさんの町民の方々に参観していただき、ありがとうございました。

期間中、各学校では、道徳授業の一斉参観をはじめ、避難訓練、福祉体験教室、交通安全教室、地域の方々とのふれあい活動など創意工夫された教育活動がみられました。



▲持留小で行われたグラウンドゴルフでのふれあい活動



まぶい窓おしえの庭

忘れてはならない「教え」・「想い」

No.63 鹿児島県文化スポーツ局スポーツ振興課
(元大崎中学校教諭)

折田 晃幸

大崎中学校を異動して半年以上が過ぎました。私が行う日々の業務は、学校現場とほとんど関わりがないため、自分が教壇に立っていたのが遠い昔のように感じる場合があります。

先日、ふらっと立ち寄った古本屋でノンフィクションの本を手に取りました。舞台は40年前の昭和50年代。いわゆる荒れた高校で、部活動を通して「夢の実現」に向けて指導者と生徒が成長するという内容でした。読み進めていくと、熱い気持ちがこみ上げ、遠い昔の記憶に思っていた教師時代をあっという間に思い出しました。「目標をもて」、「何事もハート」、「仲間を大切に」、「感謝の心を大切に」、「思いやりの心をもて」……。これらのキーワードとともに子どもたちの成長する過程が詰まった一冊が、「夢の実現」、「より良い成長」のためには、このような教えを忘れてはいけないと改めて感じさせてくれました。

「不易」と「流行」という言葉があります。私が読んだ本に書かれていたキーワードは、いつの時代でも大切にしなければならない「不易」であり、教師のみならず、保護者、地域を含めた子どもたちの周りにいる大人が教えなければならないことだと思えます。

現在、インターネット・SNSの普及により便利な世の中になっていますが、SNSのトラブルはもとより、面と向かって気持ちをぶつけ合う機会が減少していることによって、コミュニケーション不足や希薄な人間関係など、教育現場を含めた現代社会では新たな問題が発生しています。そんな時代の変化に伴い「昔と今では子どもたちも時代も変わっているから昔の教えは古くて通用しない」、「今の時代に合わせた指導を」など、教育観の変化を感じるとともに、子どもへの接し方も変わってきているように思います。

「不易と流行」の「と」をとって「不易流行」という言葉もあります。これは「いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと。」と解釈されています。不易と流行を分けて考えるのではなく、「流行」を捉えつつ「不易」を大切にしていくことが大事なのではないのでしょうか。

最後に……本の中で描かれていた指導者は、子どもたちに「本気」でぶつかり、子どもたちを「信頼」していました。「本気」、「信頼」そして「相手を思う気持ち」があって初めて発する言葉に効力が生まれると思います。これもまた、子どもたちがより良い成長を遂げるために、私たち大人が忘れてはならない「不易」でなければならないと思います。大切な地域の宝を育てるのは、私たち大人であるということ念頭に置き、子どもたちに接していきたいものです。